# 小学校における自己肯定感を高める取り組み

団体名 森永ゼミこどもフィールド演習/代表者名 森永秀典(人間科学部こども学科・講師)

### はじめに

わが国の児童生徒は、諸外国に比べ、自己肯定感が低いことが報告されている。さらに、コロナ禍の様々な制限によって、学級における人間関係形成が困難になっており、これまで以上に自己肯定感を育むことの難しさが増していると考えられる。そこで、小学校における児童の自己肯定感を高めることを目的として、感染症対策に配慮しながら、本活動を実施した。

また本活動は、参加学生のグループ・アプローチスキルの向上も目的としている。本活動を、インストラクション、モデリング、エクササイズ、シェアリングと4つ段階に分け、展開の方法について学びながら、学生同士で具体的な活動内容を考えて実施した。

## 活動内容

2021年7月に、金沢市立夕日寺小学校の3年生、4年生、6年生の学級を対象に、自己肯定感を高める取り組みを実施した。各学生、1学級を担当し、45分の時間で行った。各学級において、2つの活動を実施した。3年生は、「質問じゃんけん」と「わたしの感じシート」、4年生は、「すごろくトーキング」と「わたしの感じシート」、6年生は、「伝言ゲーム」と「わたしの感じシート」を行った。



写真 1 各学級の活動の様子

共通で行った「わたしの感じシート」は、肯定的な言葉が一覧となっているシートを用い、相手のシートに、相手の印象に最も近いと感じたマスに

自分の名前を(2つずつ)書き込んでいく活動である。

心理教育的プログラムである、「構成的グループエンカウンター(SGE)」のエクササイズとして実施されているものであり、本活動はSGEの手順にのっとって実施した。



写真2 わたしの感じシート

## 成果、結果の考察

本活動を通して、児童からは「こういう活動をもっとたくさんやりたい。」や「すごく楽しかった、新しい自分に気がつくことができて嬉しい。」等の感想があった。また、学生にとっても、実際の学級で活動を行うことができ、今後の教育実践に取り組んでいく上で、貴重な経験となった。

#### 今後の課題、展望

自己肯定感は、一度の活動で高まるものではなく、 児童間の継続的な関わりを通して育まれるものであ る。したがって、活動後も児童間の継続的な関わりを 通して、自己肯定感の向上を支援していく必要があ る。今後の課題としたい。



写真3 活動後の学生の様子